

「へき地学校等のためのIT活用方法研究開発」の報告

1. はじめに

平成12年度より3年間にわたって研究開発に取り組むことになりました。前年度までわたしたちは、子どもたちの表現力を育成するための研究を進めてきました。そんな中でこの指定を受け、TV会議システムが設置されたことは、子どもたちに新たな表現の場を与え、さらに表現力を身につけさせることができるのではないかという期待を持たせるものでした。

わたしたちは、1年次を「可能性を探る実験交流」、2年次を「教科・総合的な学習での活用の模索」と位置付け、全国の学校とTV会議を行いました。多くの学校とTV会議を行う中で、TV会議の特性や有効性を実感することができました。新しい教育課程が完全実施となった今年度は、TV会議システムの有効な活用場面を絞り込み、実践を重ねることにしました。

2. 2年次までの取り組み

「可能性を探る」1年次は、6年生において中学校で一緒になる岩滝小の高学年の児童と自己紹介などの交流を行ったり、低学年において国語で学習した物語の紙人形劇を交流し合ったりなど活用を図りました。その中で、遠隔地との交流の進め方、TV会議システムの操作方法などを学ぶことができました。

「教科・総合的な学習での活用の模索」をする2年次には、6年生の総合的な学習において、修学旅行先の京都の小学校と交流を行い、小京都と呼ばれる高山との共通点を見つけ合いました。また、5年生では、自然体験学習を行っている群馬県前橋市の小学校と自然体験学習で学んだことを交流し合いました。3年生では、社会科において岐阜県博物館とTV会議を結び、昔の道具について説明を聞きました。

昨年度のエルネット事業において2年次までの研究開発の取り組みについて報告を行い、その中で成果と課題について次のように触れています。

< 2年次までの成果 >

TV会議システムを活用することで、子どもたちの学習に対する関心・意欲を高めることができました。

子どもの情報伝達の力、表現力を育てることができた。

< 2年次までの課題 >

学校同士で活用する場合、両校にメリットのある活用を行うことが難しい。

このように、TV会議システムを活用することによって児童の表現力を高めることができるというよさが分かってきた一方、TV会議システムによる効果と活用の難しさも分かってきました。そこで、最終年度は、カリキュラムの中に明確に位置付いたTV会議システムの活用を構想し、実践していくことを確認しました。

3. 本年度の活用の構想（別紙構想図参照）

本校の教育目標「輝け いきいきとやりぬく東小の子」、さらに研究テーマ「みんなにとどけ わたしの思い」を意識し、最終的に児童の表現力の育成に結びつく活用を考えることにしました。

まず、「ひびきあい学習」（総合的な学習の時間）において、情報収集や表現・発信の場面での活用を位置付けました。ただし、相手の学校にもメリットがあるよう、共通のテーマを持って学習を進めることができる相手校とのTV会議を考えました。

4年生では、『校区の自然とわたしたちの暮らし』というキーワードで、大八賀川流域という共通の素材をもとに、上流域に位置する岩滝小学校との共同学習を行うことにしました。大八賀川を通して、環境や生活・文化などわたしたちの生活について共に学ぶことができると考えたからです。

6年生では、『郷土高山』をキーワードに、町並みが似ている京都にある畑野小学校と、歴史や町づくりという点で共に考えていく学習を行うことにしました。したがって、修学旅行をひびきあい学習の一環として実施しています。京都の伝統文化と比べながら郷土である高山のよさを実感し、高山を愛し高山を大切にしていこうとする思いを育みたいと考えています。

また、国語科において、「伝え合う」力を育成することが重点化され、「話すこと・聞くこと」の内容が位置付けられました。それらの単元においてTV会議システムの活用を位置付けることで、ひびきあい学習での意見交流や発信につながる表現力を身につけることができると考えました。そこで、以下に示す単元においてTV会議システムの活用を位置付け実践することに

しました。

<国語科でのTV会議システム活用単元>

3年生...調べたことを発表しよう

『みんな子どもだった』

4年生...心に残る発表会をしよう

『十さいを祝おう』

5年生...体験したことを分かりやすく伝えよう

『わたしたちの学校生活』

6年生...伝えたい「何か」を見つけよう

『自分の考えを発信しよう』

実際に授業を行う際には、授業のねらいを達成することを一番の目的とし、その中でTV会議システムの特性を生かすことができるよう配慮しました。わたしたちはTV会議システムの特性を次のようにとらえて活用を図っています。

リアルタイムに情報交換ができること
双方向性があること
実物を提示できること

4. 3年次における具体的な実践

(1) 5年生「国語」での実践

単元名：『わたしたちの学校生活』（全12時間）

TV会議相手校：福岡県大野城市立平野小学校



[スピーチ交流会で発表している様子]

伝える内容を学級での係活動、伝える相手を遠く離れた平野小学校の友達に設定して単元指導計画を立てました。TV会議システムは、単元導入の第1時と終わりの第10・11時での活用を位置付けました。

第1時では、両校一緒に単元のめあてを確認し、学習の見通しを持ちました。単元の終わりにTV会議シ

ステムでの発表会を行い、お互いに分かりやすく伝え合うことを確認しました。第2時からは、それぞれの学校で、スピーチ原稿を書き話し方の練習を行いました。そして、終わりの10・11時では、学習の成果をスピーチで発表し合いお互いの感想や評価を交換しました。

自分達たちのことを全く知らない相手にどうしたら分かりやすく伝えられるか一生懸命考えたり、相手に伝わる話し方の練習に繰り返し取り組んだりするなど、子どもたちの真剣で意欲的な姿が見られました。また、遠く離れた相手の感想や評価に、子どもたちはより大きな満足感を持つことができました。

授業後Aさんは、次のように感想を話しています。

「相手にわかりやすく伝えるために話すスピードに気をつけて練習したけど、平野小の友達や先生に、ゆっくりで内容がよく伝わったと評価してもらってうれしかったです。」

TV会議システムを活用したことで、より相手に分かりやすく伝えようと努力し、分かりやすく伝えるための表現力を身につけることができたと考えています。

(2) 6年生「ひびきあい学習」での実践

キーワード：『郷土高山』

TV会議相手校：京都府亀岡市立畑野小学校



[相手校の児童に質問している様子]

ひびきあい学習の【求める】段階の調査活動において、自分の疑問を解決しあらためて課題追究の見通しを持つための場面としてTV会議システムを活用しました。高山が小京都と呼ばれることから、京都府の畑野小学校とTV会議を行うことにしました。TV会議の場面では、自分たちが調べてきて分かってきたこと

をもとに、畑野小側に疑問を投げかけ、それに答えてもらう形をとりました。

言葉を聞いただけでは理解できなかったことを画用紙に書いて画面で確認したり、分からない部分を繰り返し説明してもらったりして、子どもたちは疑問を解決することができました。さらに、次の時間から何をどう調べていくとよいのかという見通しを持つことができました。

Sさんは、次のように感想を書いています。

高山祭りの屋台について調べ満足していたけど、畑野小の子の話を聞いて自分の調査が不十分だったとわかった。

そしてBさんは、高山の屋台と祇園祭の山車と比べたり、どのように保存されてきたのかを調べたりするなど、その後の調査活動の見通しを持ち、より詳しく調査活動を行うことができました。

3学期には、活動を通して深まった郷土への思いを畑野小の児童とTV会議で交流し、高山のよさをPRしていく予定です。

5. TV会議室の学習環境整備

子どもたちがTV会議システムを有効に利用し、表現力を身につけていくことができるよう、情報機器の使い方や学習の進め方、相手との話のし方などを示した掲示物を作成しました。そして、TV会議室全面に掲示しました。これにより、実際の活用場面において、子どもたちは掲示を参考にしながら相手に話すこともできるようになり、より相手とのコミュニケーションがうまく図られるようになってきています。

また、これまでのTV会議の活用について足跡の掲示を残すことで、情報収集等の有効な方法として子どもたちに広く認識させられるよう工夫しています。

6. 成果と課題

今年度のこれまでの実践から、次のように成果と課題をまとめました。

< 成果 >

TV会議システムを総合的な学習の時間に位置付け活用の目的をはっきりさせたことで、つけたい力を明確にして授業にあたることができるようになった。

国語の「伝える」単元でTV会議システムの活用場面を位置付けることで、無理なく教科の時間内

で伝え方を身につけることができるようになった。

TV会議システムを活用することで、調べ方や伝え方の方法が広がり、大変意欲的に学習に向かう児童の姿が多くなってきた。

< 課題 >

総合的な学習で活用していく場合、共通のねらいや歩調で共同学習を進められるように、前年度から相手校と打ち合わせをしていきたい。

総合的な学習や教科において、博物館等の専門機関と結んだ実践をさらに増やしていきたい。

TV会議の相手が同じ小学校では、共通のねらいや目的を持って活用しなければ、デメリットが生まれてしまいます。そこで今年度考えたのが、教科や総合的な学習における共同学習です。

私たちは、共同学習を行ってきてその可能性の大きさを実感しています。特に4年生において、共に大八賀川の流域に位置する岩滝小との共同学習は、共通の素材、生活・文化という観点から見ても大変意義深いものであるととらえています。

共同学習を行うためには、まず総合的な学習において共通のねらいや目的を持つ相手校を探すことが重要です。また、頻繁に学習の進め方など打ち合わせを行っていくことも必要です。しかし、共同学習を構想しスタートしたのが今年度であり、それぞれの学校がそれぞれの計画を作成してしまっていたため、今年度の共同学習には無理が生じていることも事実です。

今後、来年度の共同学習に向け、TV会議相手校との準備や十分な打ち合わせを行っていきたいと考えています。その中で、共通のねらいや活動の方向性を持って両校の指導計画を修正していくことができれば、TV会議システムをより有効に活用できるものと考えています。

7. おわりに

3年間にわたりTV会議システムの可能性を探る取り組みを行ってきましたが、その歩みはまだ途中です。しかし、これまで、TV会議システムによって子どもたちの学びが豊かになり表現力を向上させることをわたしたちは実感してきました。TV会議システムは、学習のねらいに近づくための一つの方法にしかすぎませんが、子どもの学習をより豊かにする可能性を持つ道具です。今後も東小学校の特色ある教育活動の一つとして大切にしていきたいと思っています。

